



2018年7月4日

各位

2017年 受信状況について

かけ手の高齢化と若者の電話離れ

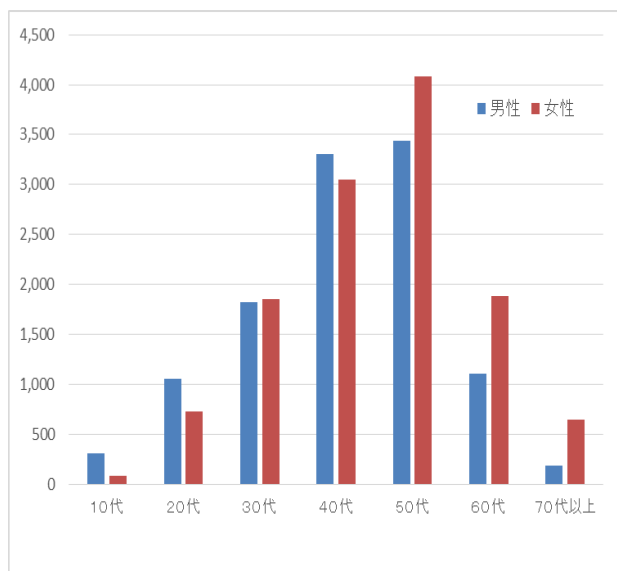
社会福祉法人 関西いのちの電話では、1973年に創設して以来、様々な理由で生きる希望をなくしている人たちや孤独に苦しむ人たちの声に、24時間365日体制でひたすら耳を傾けてきました。その活動は、名もなきボランティア相談員たちの力によって支えられ、またその運営は、企業や個人からの善意の寄付によって支えられています。

関西いのちの電話では、相談員が記録した受信カードをもとに、1年間の受信状況について分析を行っています。この度、2017年分をまとめましたので、概要のみ報告致します。

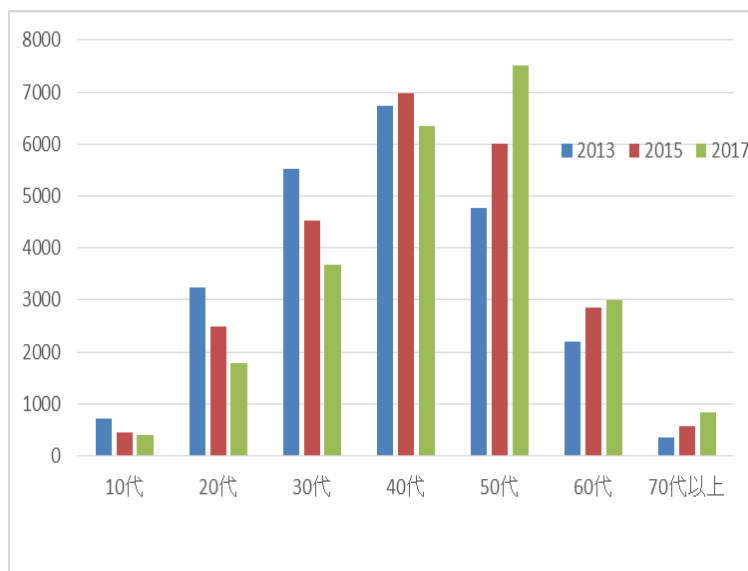
2017年 全体の傾向

年間の受信件数は23,601件で、2010年以降ほぼ2万3千件台を推移しています。これは関西いのちの電話の相談員が受信した総件数であり、この中には、日本いのちの電話連盟として毎月10日に実施している「自殺予防フリーダイヤル」の件数も含まれています。

＜年代・男女別相談件数＞



＜年代別相談件数推移＞





全体の52%が女性で男性よりもやや多く、その傾向に変化はありません。女性の主訴として一番多いのが、うつ病など「心の病」に関する悩み、次が生き方や孤独という「人生」に関するもの、そして「家族」との関係という順になっています。男性も1、2位は同様で、「心の病」に関するものと「人生」に関するもので過半数を占めています。

年代別では、50代、40代、30代の順で多く、しかし60代、70代が大きく増加し、特に60代と30代との差が小さくなってきています。さらに10代、20代からの相談が減っています。この傾向は2015年あたりから始まりました。これは若者のコミュニケーション手段が、電話ではなくSNSなどのツールに変化していることが一因と考えられます。生の声で思いを伝える電話より、発信しやすく匿名性の高いSNSの方が、若者にとってはハードルが低いのかもかもしれません。

自殺傾向について

「自殺したい」という訴えは、全体の15%で前年より400件以上減りました。その内、女性は53%、男性は47%でした。しかしこの2年間は男性の自殺傾向が高くなっています。自殺の要因の一つでもある心の病は、全体としては66%ですが、自殺傾向のある電話では、未婚女性の場合ほぼ9割が心の病を抱えているという状況でした。

一方、「自殺予防フリーダイヤル」では、男性が全体の59%と女性よりも多くなっています。自殺傾向率は26%、4本に1本は自殺を訴える電話でした。男女ともに「心の病」を主訴とする相談が多数寄せられ、通常の電話と同様、男性では「生き方」や「孤独」に関する相談、女性は「家族」に関する相談が多い傾向にあります。また携帯電話の利用が70%に達しています。

社会が高齢化し、経済不安や孤独など将来への不安がますます増加し、生きづらさを多くの方が抱えています。その中で私たちの活動は今後もより一層求められることと確信しています。しかしその一方、若者の高い自殺率、ネットを介したトラブルや悲惨な事件などを見聞きするにつけ、若者の心を包み込む何らかの手段を考える必要があるのではないかと考えています。私たちいのちの電話が、この複雑な社会に対してどのように応えることができるかが問われています。引き続きご支援を賜りたく、宜しくお願い申し上げます。

【お問い合わせ先】

社会福祉法人 関西いのちの電話 事務局

大阪市淀川区十三元今里 3-1-72

TEL : 06-6308-6868 e-mail: kaind@x.age.ne.jp